

強者の戦略

ついに受験の天王山である夏休みが到来しましたね。現役生の方は本当にこの夏が勝負です。学校に行くことなく、朝から晩まで自由に自分で計画して勉強できるのはここが最後だと思います。冬休みはセンター対策に追われて、なかなか思い通りの勉強はできませんよ。なので、夏に入る前から自分が何をすべきなのかを考え、必要なら担当の先生に相談をして、後悔のない勉強をしてください。

あと、考えなければならないのは自習室をしっかりと確保することです。予備校の授業を受けている間に自習室が埋まってしまって、次の授業を受けるまでに勉強する場所がなくなることがあります。私が高校3年生の時は自習室の座席を確保できないことがあって、勝手に階段に座って生物などを勉強したりもしましたが、いまいち集中力が上がらず失敗した思い出があります。自習室が埋まりそうなら、近くの喫茶店にでも行って、コーヒーでも飲んで勉強するのもありだと思います。お金はかかりますが、有意義な勉強ができればそれにこしたことはないでしょう。

まあいろいろ書きましたが、夏で合格できるか否かはかなり左右されるので気合を入れて準備してください。では前置きはこのへんにして南アジア農業の解説に入っていきますよ！

【解答】

問1 (ウ)である。バングラデシュの雨季は太陽の回帰の影響から6～8月と考えられ、その時期に成長した場合、収穫期は11～12月になるから。(60字)

問2 表よりボロの大半は年平均単位面積当たり収穫量が多い高収量品種であることが分かる。高収量品種は水の管理が必要なので、乾季における灌漑網の整備により作付け面積が拡大し、生産が増加した。(90字)

問3 国土の大部分がガンジス・ブラマプトラ川下流域の低平な三角州に位置し、河川が網目状に分

流しているため、雨季の増水時に氾濫しやすい。ヒマラヤ山脈斜面の森林伐採も氾濫発生の一因である。また、サイクロン襲来時に高潮の被害を受ける地域が多い。(116字)

問4 アラブ首長国連邦。ドバイ地区の開発のために建設労働者として出稼ぎが増加したが、アメリカの経済危機を起点とする世界的不況の影響を受けて開発が停滞し、出稼ぎの数は減ると考えられる。(88字)

【解説】

問1 問題文中の「**アマンは、雨季に冠水する地域で栽培され、浮稲あるいは深水稻と呼ばれる**」という部分がヒントになりますね。雨季のときの河川の増水とともに、稲穂が伸びて上昇して水面に顔を出し、水に浮いている様子から**浮稲**と呼ばれます。バングラデシュの気候区分は**サバナ気候(Aw)**で**6～8月が雨季**にあたるので、その時期に成長している(ウ)が正解となります。

他の種類も当てはめてみましょう。アウスとボロを比べると、アウスの方が1972年当時に生産量が多く、ボロは後々に生産量を伸ばしていています。また、ボロでは高収量品種の生産量が多く、年平均単位面積当たり収穫量が多いことが読みとれます。このことから、アウスがもともとバングラデシュで浸透していた伝統的な品種で、ボロが**灌漑水路の整備と共に普及していった高収量品種**と判断できます。よって、灌漑用水がなくてもある程度雨季の降水量で生産できていたであろう(イ)がアウス、灌漑用水がなければ生産できない乾季に作付けされている(ア)がボロになります。

問2 ほぼ問1の解説の中でボロの生産拡大の理由が説明されていますが、高収量品種という言葉を知ったら「**緑の革命**」をイメージできなければ駄目ですよ。今回の問題では「緑の革命」を深く聞く問題は出ませんでした、「緑の革命」

強者の戦略

の概要とその問題点を解説しておきましょう。

「緑の革命」とは、**稲・小麦・とうもろこしなどの品種改良を行って高収量品種を開発し、その品種を食料不足に悩んでいる発展途上地域に普及させることにより、ある程度食料不足を解消することに成功したことを指します。**この部分だけを聞くとすばらしいように思えますが、実は問題もあります。高収量品種は非常にデリケートな品種であり、栽培にあたっては、**「化学肥料を用いなければならない」、「農薬を使用しなければならない」、「水量調整を常に行わなければならない」という手間がかかります。**しかも、このような手間をかけることができるのは、裕福な農家しか考えられません。化学肥料・農薬購入、灌漑設備の建設には膨大なお金がかかりますのでね。そうなってくると結局、**富農は高収量品種を導入し、収穫量を上げることに成功しましたが、貧農は高収量品種を用いることができずに在来品種で頑張り、収穫量を上げることはできませんでした。**つまり、**貧富の差が拡大するという問題**を招いたことになります。このポイントはよく模試や大学の実際の試験でも問われますので、よく理解しておいてください。

問3 バングラデシュの水害は受験生の総合的な力を試す良問です。いくつも理由が出てくる受験生ほど勉強していることが分かります。

まず、バングラデシュが**ヒンドスタン平原**に位置しており、**国土全体の海拔高度が低い**ことが挙げられるでしょう。そして、**ガンジス川とブラマプトラ川**の二河川が流れ込み、**デルタ(三角洲)**を形成しています。この河川が網目状に流路を形成しているので、各所で氾濫し国土を水浸しにしてしまいます。これで「河川」を使うことができました。しかし、さらにここで「森林」を使うことができます。どこで使ったらいいか分かりにくいこの単語ですが、バングラ

デシュの国土において「森林」を使うのではなく、**ガンジス・ブラマプトラ川上流地域で「森林」を使用します。**近年は、**ヒマラヤ山脈斜面で開発が進み、森林伐採が進んでいます。**「森林」は天然のダムで、降水を保水する能力に長けています。しかし、この「森林」が上流地域で伐採されることにより、保水できなくなった分の水量により下流で増水を招き、氾濫の頻度を上げることにつながっています。このように**環境問題は国境を越えます**から恐いですよ。日本でも中国からの硫黄酸化物や窒素酸化物が偏西風に乗ってやってきて酸性雨をもたらしますし、黄砂も飛んできます。春先は黄砂で空の見通しが悪くなることもありますよね。私はよくその時期に頭が痛くなるのですが、勝手に、黄砂に付着した硫黄酸化物が私の鼻腔に入り、そのまま体に影響を与えて頭痛につながっていると考えています。「考えすぎじゃないですか?」と思うかもしれませんが、私の体も結構デリケートなのです。覚えておいてください。

話は脱線しましたが、あとは「高潮」ですね。これは簡単。南アジアでは**サイクロン**が発生するとその影響で高潮が発生し、**バングラデシュを襲ってきます。**海拔高度が低いので水浸しになります。また、この波の影響で**海岸線の後退**も招いています。海岸線付近に住んでいる住民は移住しなければならないですから大変ですね。

問4 **アラブ首長国連邦**を挙げることができます。**ドバイ**地区では**脱石油経済を狙って中東の金融・観光立国を目指し大規模開発が行われ、建設労働者として多くの国の労働者が雇われました。**小さなドバイには多くの観光客が訪れ、シンガポールより多くの船舶が寄港し、ポルトガルやベルギー、東欧諸国などの多くの欧州諸国を上回る、多額の外国資本が投じられてきました。2年前には石油価格が高騰し、石油取引で利益を上げた投資家などがドバイに投資し、

強者の戦略

その影響で開発が進んだ面もあります。そして、150ヶ国以上の国の人々がここで暮らし、働いていて、経済成長率は中国の2倍近くの16%にも達する時期さえあったほどです。しかし、アメリカのサブプライムローン問題→リーマンショックによる世界同時不況の波を受け、開発は以前より停滞し始めました。外国企業からの投資引き上げや地元企業の資金繰り悪化と、それに伴う多数の建築工事や計画の中断が報じられており、またその結果起きた外国人労働者の失業や経済低迷に伴う観光客の減少など、今後も経済的混乱が予想されます。なので、今後のバングラデシュからの出稼ぎの人数は減少すると考えられます。

どうでしたか？なかなか解きごたえのある問題でしたね。経済や農業などを扱った問題で実力を試すことができたと思います。次回の出題は秋になるとと思いますが、それまで地理力を上げておいてください！